

社会文教常任委員会

- ① 視察日…2018年10月30日
- ② 訪問地…小田原市
- ③ テーマ…生活保護行政
- ④ 参加議員…小林市子(委員長)、川合弘人(副)、名取武一、織田昭雄、小池勇

小田原市は2017年1月に担当職員が「保護なめんな」生活保護悪撲滅チームなどと、ローマ字、英語で書かれたジャンパーを着て、生活保護受給者宅を訪問していたことが発覚しました。約10年間で着用していましたが、職員の対応は「受給者を威圧する」など、市の内外から批判され、大きく報道されました。

市は「ジャンパー事件」をきっかけに、生活保護行政を根本的に見直しました。その結果、「行政が利用者に寄り添ってこなかった」という反省に立ち、様々な改善策に取り組みました。生活保護の現状にも真摯に向き合いました。

生活保護を受けている人の呼称を「受給者」から「利用者」に改

利用者に寄り添う生活保護行政を

めたほか、全庁的な表記の再点検を行いました。生活保護を受けるべき人が受けていないことも分かり、正しい申告の仕方を指導。不正受給が起りにくい対策も講じました。母子世帯の利用者は4%と少ないことから、状況を把握し、適切な支援に努めました。ケースワーカーの充足、社会福祉士など有資格者の採用を進める中で、ケースワーカーと市長との懇談会も実施しました。

「不正受給」とされた中には、悪意のない申告漏れや、運用の厳格化により不正と扱われたケースもありました。生活保護の重要な課題は、「不正受給の撲滅」ではなく、本当に必要な人に生活保護という制度が



小田原市の担当職員(手前)から生活保護行政の説明を受ける富士見町議会「社会文教常任委員会」の委員

行き届いていないことにある、としていきます。「住民の幸せ」をどう考えるか、参考にした小田原市の取り組みでした。

総務経済常任委員会

- ① 視察日…2018年7月4日、5日
- ② 訪問地…塩尻市、岐阜県瑞浪市、愛知県名古屋市
- ③ 参加議員…名取久仁春(委員長)、矢島尚(副)、五味高幸、三井新成、加々見保樹、五味平一

総務経済常任委員会は、初日に塩尻市の「信州Fパワープロジェクト」、瑞浪市の「岐阜バイオマスパーク」を視察



岐阜県瑞浪市の「岐阜バイオマスパーク」を視察

未利用木材を発電に有効活用

オマスパワー」を見学。バイオマス発電により、森林資源を有効活用している先進事例を視察しました。2日目は名古屋市瑞穂区の「ソーラーパークしおみ」を見学し、遊休地を利用したソーラー発電所を視察しました。

【信州Fパワープロジェクト】
発電出力が1万4500kw。森林資源を活用し、利益を山に還元することで、林業を復活させ、森林の再生、木材産業の振興を図る取り組みです。視察時点ではまだ発電事業は行っていませんでした。

【岐阜バイオマスパワー】

発電規模が6250kw。一般家庭1万1000世帯分に相当します。蒸気タービン駆動で、年間に使用する木材は8万5千(9万)ト。現在85万トの森林を確保しています。未利用木材を有効活用することで、森林整備の促進、林業の活性化、地域社会の活性化が期待できます。

【ソーラーパークしおみ】
港湾埋め立て地の広大な空き地を有効活用し、発電事業を開始しました。敷地面積は約2万3千平方メートル。最大発電量は191万kw。ソーラー発電所としては最適の場所であり、有効な土地利用の方法と考えられます。2日目は「リニア・鉄道博物館」(名古屋市港区)も視察しました。

全員協議会での町関係協議事項・報告事項【10月～12月】

◆10月22日(第7回全協)

- ①平成31年度町長方針(名取町長)
- ②第5次富士見町総合計画後期基本計画の策定(総務課・小林企画統計係長)
- ③上水道事業認可の変更(宮下上下水道課長)
- ④台風21・24号の被害状況(名取町長、植松副町長、伊藤総務課長、小池建設課長)
- ⑤工事入札情報の設計図書を開示する際の不適切事案(金井財務課長)
- ⑥中学林のメガソーラー計画を巡る動き(伊藤総務課長)
- ⑦その他(伊藤総務課長)

◆11月20日(第8回全協)

- ①12月定例会への提出予定議案(植松副町長)

※()内は説明者

- ②諏訪南リサイクルセンターの負担割合変更(建設課・平出生活環境係長)
- ③消防団員の処分(富士見消防署・濱署長)
- ④中学林のメガソーラー計画(伊藤総務課長)
- ⑤車両破損の和解(伊藤総務課長)
- ⑥その他(伊藤総務課長)

◆12月18日(第9回全協)

- ①12月定例会への追加議案(植松副町長)
- ②平成30年の富士見町重大ニュース(伊藤総務課長)
- ③国民健康保険料にかかわる賦課・徴収の誤り(住民福祉課・名取国保年金係長)